

学年別 教科に関する調査結果考察資料
中学校

調査実施日 令和5年4月13日（木）

「思考・判断・表現」が良好である

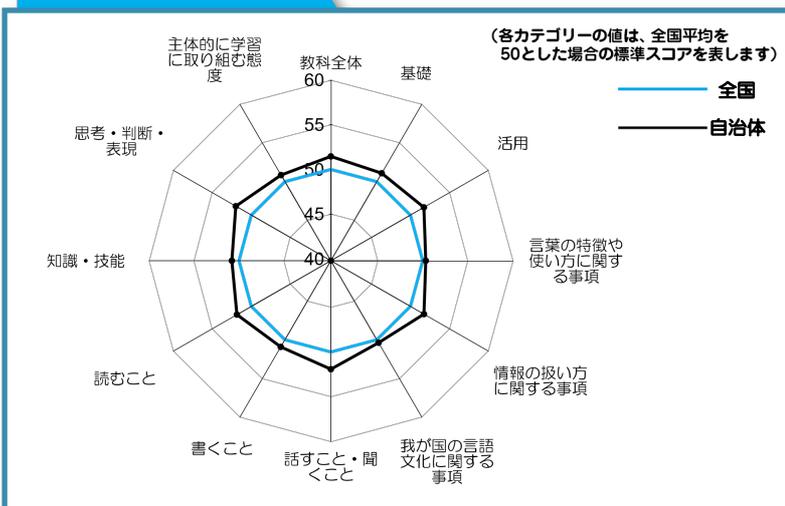
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		69.0	72.0	★
基礎		71.2	73.4	★
活用		65.5	69.7	★
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.0	70.7	★
	情報の扱い方に関する事項	71.6	77.9	★
	我が国の言語文化に関する事項	65.7	67.5	★
	話すこと・聞くこと	63.6	68.7	★
	書くこと	71.8	75.1	★
観点別	読むこと	70.6	75.4	★
	知識・技能	69.9	71.6	★
	思考・判断・表現	68.3	72.8	★
	主体的に学習に取り組む態度	66.5	69.1	★

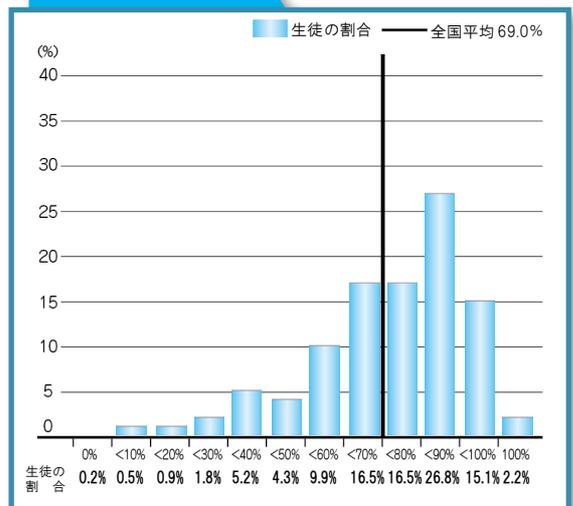
分析 コメント

- 中1国語は、教科全体の正答率が72.0%
- で、全国平均正答率を3.0ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に達している。中でも、「思考・判断・表現」が72.8%で、全国平均正答率を4.5ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を書く

大問2(2)①

<ねらい> 小学校で学習した漢字を正しく書いている。

全国平均 53.1% 正答率 48.4% 差 ▲4.7 ポイント

指導のポイント 漢字に習熟させるためには、日頃から生徒が漢字に触れる機会をできるだけ増やす必要がある。特に漢字を書く力を養うためには、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる習慣を身に付けていくことが重要となる。文脈に即して漢字を適切に用いることができるよう、授業において意図的に取り上げるなどの工夫をしながら、学習させることが大切である。

文学的な文章の内容を読み取る

大問5(1)

<ねらい> 登場人物の心情について、描写を基に捉えている。

全国平均 88.9% 正答率 89.8% 差 0.9 ポイント

指導のポイント 登場人物の心情を読み取る問題では、話全体の流れを押さえて読むことが必要である。全体を通した話の流れの中で、場面ごとに登場人物の心情がどのように変化し、最終的には登場人物がどのような心情でいるのかを考えていくような読み方を改めて確認し、指導していくようにしたい。

「知識・技能」の定着に課題が残る

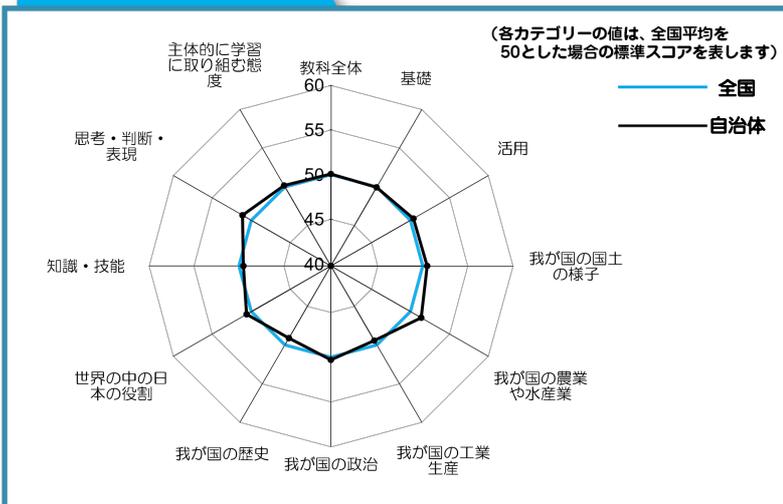
正答率一覧

		★全国平均正答率	全国平均	自治体	(%)
教科全体		64.9	65.0		
基礎		67.8	67.7		
活用		55.3	56.3		
領域別	我が国の国土の様子	73.7	74.9		
	我が国の農業や水産業	57.3	61.0		
	我が国の工業生産	68.7	67.1		
	我が国の政治	74.5	75.4		
	我が国の歴史	63.9	61.9		
	世界の中の日本の役割	58.4	60.0		
	観点別	知識・技能	67.6	66.7	
思考・判断・表現		59.1	61.6		
主体的に学習に取り組む態度		57.2	57.6		

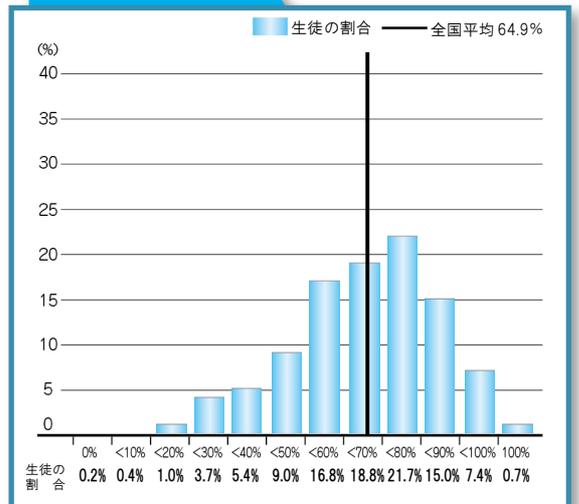
分析 コメント

- 中1社会は、教科全体の正答率が65.0%
- で、全国平均正答率を0.1ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、「思考・判断・表現」が61.6%で、全国平均正答率を2.5ポイント上回った。一方、「知識・技能」が66.7%で、全国平均正答率を0.9ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

天皇中心の国づくり

大問5(1)②

<ねらい> 聖徳太子の行った政策について、理解している。

全国平均 56.4% 正答率 48.7% 差 ▲7.7 ポイント

指導のポイント 本問は、聖徳太子の業績について扱っているが、聖徳太子を中心とした国づくりや仏教、蘇我氏との関係について整理できていない生徒が多いと考えられる。キーワードは「聖徳太子」「蘇我氏」「遣隋使」である。調べ学習を通して、聖徳太子など、歴史上の重要な人物についての理解を深めさせるとともに、教師がその人物のもつさまざまなエピソードに触れることも大切である。

日本の工業生産

大問3(1)①

<ねらい> 工業のさかんな地域である「太平洋ベルト」という言葉を理解している。

全国平均 52.5% 正答率 46.4% 差 ▲6.1 ポイント

指導のポイント 誤答の生徒については、「太平洋ベルト」という用語が、十分に定着していないと考えられる。「太平洋ベルト」については、海沿いに広がっていること、及びその地域で工業が盛んになった理由を、きちんと押さえさせる必要がある。具体的には、工業原料の多くを輸入に頼り、工業製品を輸出する日本では、原料・燃料の輸入や製品の輸出に使う港があるなど、交通の便が良い臨海部に製鉄所や石油化学工場などが集中していることを、地図で確認させたい。

中1 数学

「思考・判断・表現」が良好である

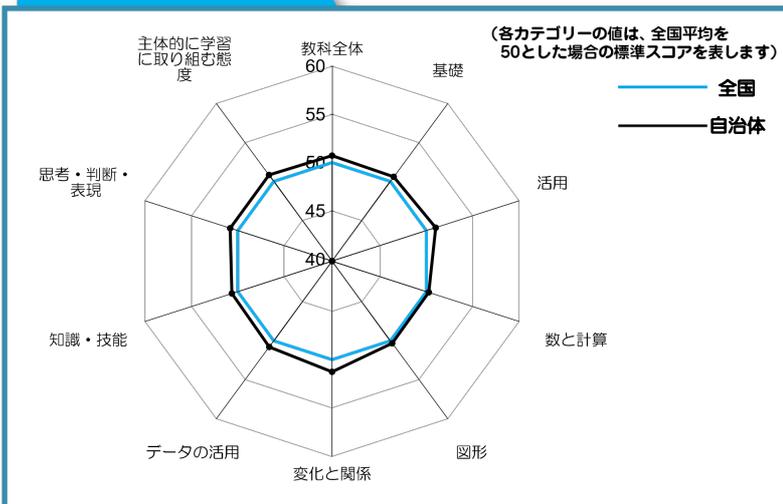
正答率一覧

		★全国平均正答率	全国平均	自治体	(%)
教科全体		71.2	72.6		
基礎		72.2	73.3		
活用		67.0	69.6		
領域別	数と計算	76.2	76.7		
	図形	76.9	77.6		
	変化と関係	66.5	69.8		
	データの活用	62.0	63.9		
観点別	知識・技能	71.7	72.9		
	思考・判断・表現	69.6	71.6		
	主体的に学習に取り組む態度	63.7	65.6		

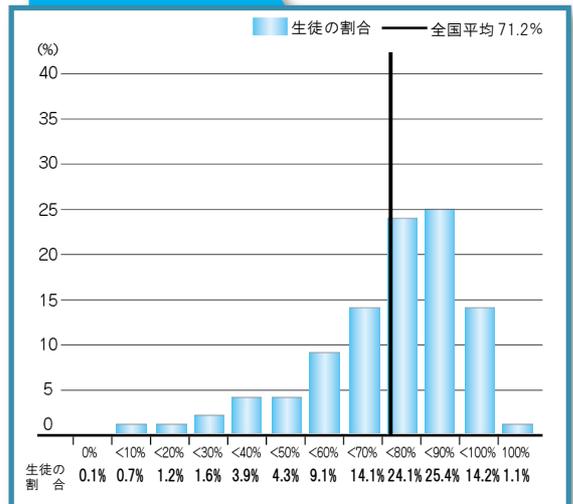
分析 コメント

- 中1数学は、教科全体の正答率が72.6%
- で、全国平均正答率を1.4ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に達している。中でも、「思考・判断・表現」が71.6%で、全国平均正答率を2.0ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

平均・場合の数

大問14(2)

<ねらい> 5色のハンカチの選び方が何通りあるかを求める図について、誤りを指摘することができる。

全国平均 59.8% 正答率 52.9% 差 ▲6.9 ポイント

指導のポイント 誤答の原因としては、樹形図を正しく作れないことなどが考えられる。樹形図を作り、起こり得る全ての場合を、落ちや重なりがないように数え上げるよう指導することが大切である。場合の数では、「AB」「BA」を数える場合と、「AB」を数えたら、「BA」は重複として数えない場合があるので、何が問われているのかをよく確認して、正しく図や表をかくことができるように練習を積み重ねることが必要である。

平面図形

大問10

<ねらい> ある四角形と合同な四角形を、すべて選ぶことができる。

全国平均 61.7% 正答率 57.2% 差 ▲4.5 ポイント

指導のポイント 合同な図形について復習させる必要がある。合同な図形は、形も大きさも同じであることから、対応する辺の長さや対応する角の大きさが等しいことを図で確認させる。また、2つの図形が同じ向きに並んでおらず、裏返しになっていたり逆さまになっていたりしても、ぴったり重ね合わせることができれば合同な図形であることについても、切り取った図形を実際に動かすなどして、具体的に指導することが大切である。

中1理科

「知識・技能」の定着に課題が残る

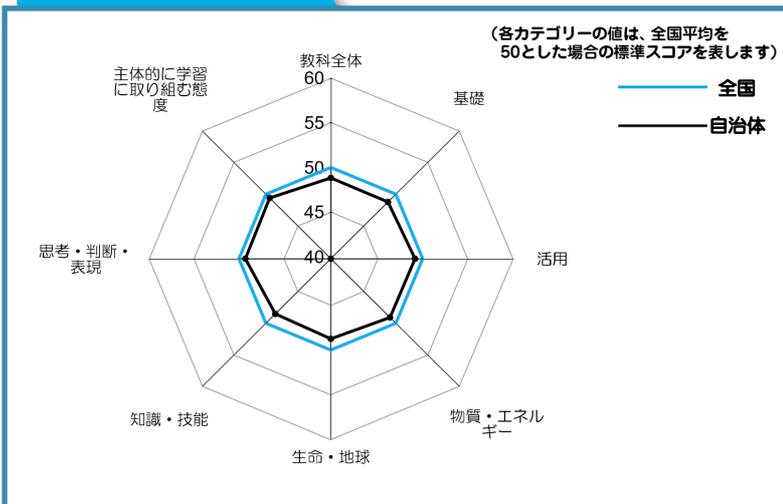
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		67.0	64.8	★
基礎		69.0	66.6	★
活用		61.8	59.7	★
領域別	物質・エネルギー	72.4	70.6	★
	生命・地球	62.5	59.9	★
観点別	知識・技能	68.8	65.9	★
	思考・判断・表現	64.9	63.3	★
	主体的に学習に取り組む態度	66.3	64.9	★

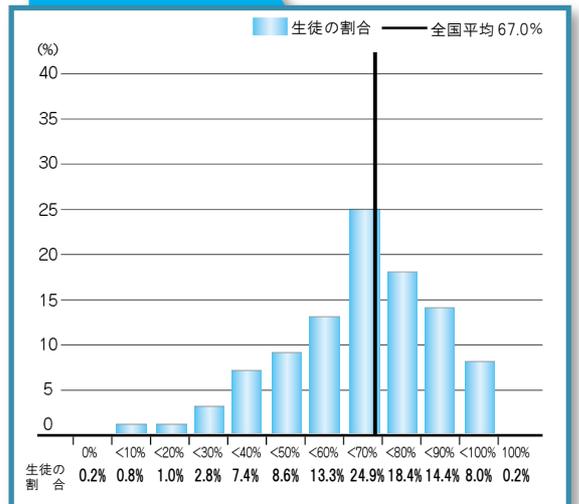
分析コメント

- 中1理科は、教科全体の正答率が64.8%
- で、全国平均正答率を2.2ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に届かなかった。中でも、「知識・技能」が65.9%で、全国平均正答率を2.9ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

動物のからだのつくりとはたらき

大問12(2)

<ねらい> 消化された食べ物の養分が、小腸で吸収されることを理解している。

全国平均 41.7% 正答率 32.6% 差 ▲9.1 ポイント

指導のポイント 人間の体には、消化器、呼吸器、循環器などの器官があり、小腸は消化器である。人体の模型などを使って、各器官の位置や形を調べさせるとともに、それぞれの器官の働きを一覧にしてまとめさせるとよい。消化の働きについて、食べた物が、口、食道、胃、小腸、大腸を通る間に消化されていくこと、消化された食べ物の養分は、主に小腸から吸収されることを確認させる必要がある。

植物のつくりとはたらき

大問5(2)

<ねらい> 植物が葉から水蒸気を出すはたらきを、「蒸散」ということを理解している。

全国平均 43.8% 正答率 36.5% 差 ▲7.3 ポイント

指導のポイント 葉をちぎって、裏側の薄い皮をはがし、水蒸気が出ていく穴（気孔）を顕微鏡で観察させる。その際、表側の薄い皮も観察することができるのであれば、表側と裏側の気孔の数を比較させ、一般に葉の裏側の方が気孔の数が多いうことを生徒に発見させたい。時間がない場合は、事前に教師がプレパレートを用意しておき、検鏡だけさせてもよい。これらを踏まえ、植物の体の中の水が、水蒸気になって気孔から出ていくことを、科学的な用語である「蒸散」を使用して説明できるようにさせる必要がある。

中1 英語A

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

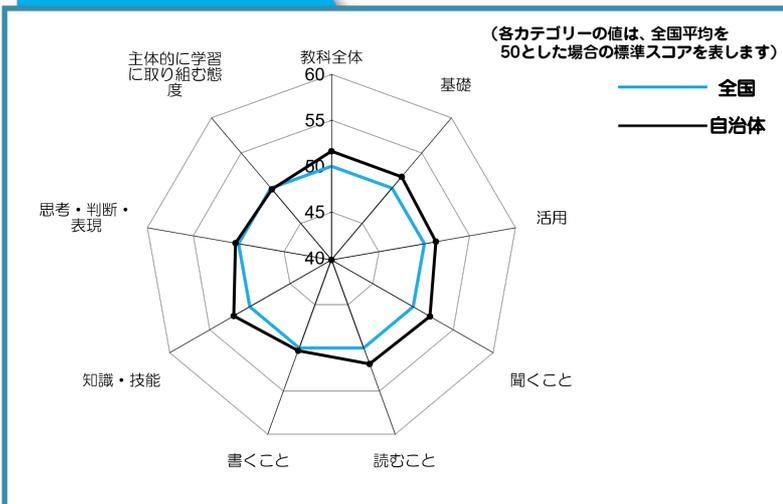
正答率一覧

		★=全国平均正答率	全国平均	自治体	(%)
教科全体		85.8	87.8		★
基礎		84.9	87.0		★
活用		88.7	90.7		★
領域別	聞くこと	82.8	85.6		★
	読むこと	88.0	91.2		★
	書くこと	87.5	87.9		★
観点別	知識・技能	82.9	85.7		★
	思考・判断・表現	91.5	91.9		★
	主体的に学習に取り組む態度	92.9	92.7		★

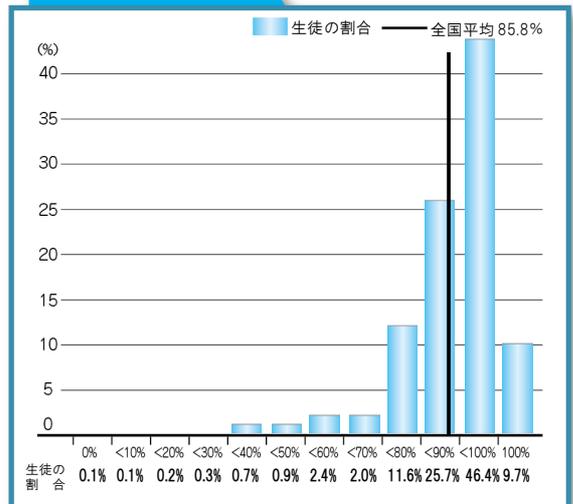
分析 コメント

- 中1英語Aは、教科全体の正答率が87.8%
- で、全国平均正答率を2.0ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、「知識・技能」が85.7%で、全国平均正答率を2.8ポイント上回った。一方、「主体的に学習に取り組む態度」が92.7%で、全国平均正答率を0.2ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

アルファベットの書き(聞く)

大問3(2)

<ねらい> 音声を聞き、活字体の大文字を正しく書いている。(U)

全国平均 90.9% 正答率 89.2% 差 ▲1.7 ポイント

指導のポイント 聞き取ったアルファベットを大文字で書く問題である。アルファベットの学習では、日頃から、文字と音をセットでインプットすることを意識させることが大切である。また、本問では、アルファベットの大文字と小文字について正確に理解していることが必要となる。上に大文字、下に小文字、あるいは左に大文字、右に小文字が書かれたカードやプリントを準備して、一文字一文字の大文字と小文字をリンクさせたい。特に、形が似ているものや間違えやすいものについては、整理させて繰り返し確認させるとよい。

英作文

大問15

<ねらい> 例文と語群を参考にしながら、自分がなりたい職業について、自己紹介の文を書いている。

全国平均 87.6% 正答率 86.2% 差 ▲1.4 ポイント

指導のポイント 大問15は、「あなたがこれからしたいこと(なりたいもの)」というテーマで、自己紹介する文を作る問題である。ここでは、I want to beの後に続く「D」に言葉を入れて、文を書く必要がある。生徒によっては、選択肢に自分のなりたい職業がない可能性もあるが、そのことで無解答にならないように、自分の興味があるものを選べばよいこと、表にない言葉を使って書いてもよいことを指導するとよい。また、選んだ選択肢を書き写すときには、aとanの区別をさせるなど、冠詞にも注意させることが重要である。さらに、冠詞と次の単語の間にスペースを空けることにも注意させたい。

「知識・技能」の定着に課題が残る

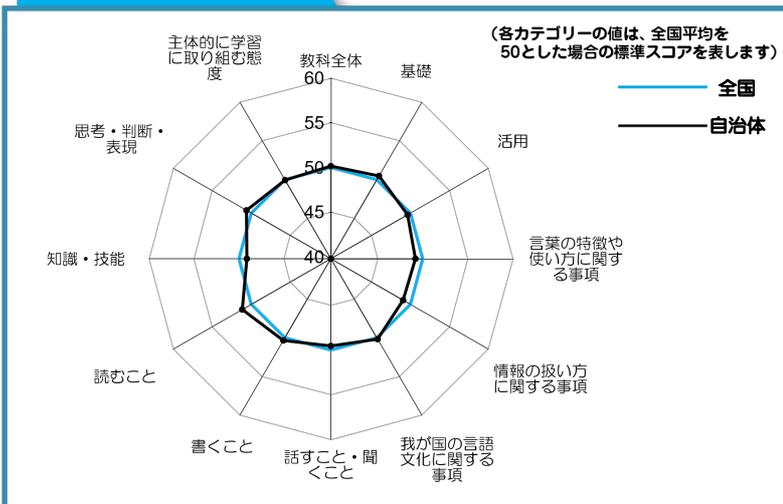
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		68.5	68.8	★
基礎		71.3	72.2	★
活用		63.3	62.4	★
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.0	71.3	★
	情報の扱い方に関する事項	76.8	73.7	★
	我が国の言語文化に関する事項	80.4	81.1	★
	話すこと・聞くこと	67.2	65.9	★
	書くこと	68.0	69.0	★
観点別	読むこと	60.9	64.2	★
	知識・技能	74.3	72.5	★
	思考・判断・表現	65.2	66.6	★
	主体的に学習に取り組む態度	59.5	59.4	★

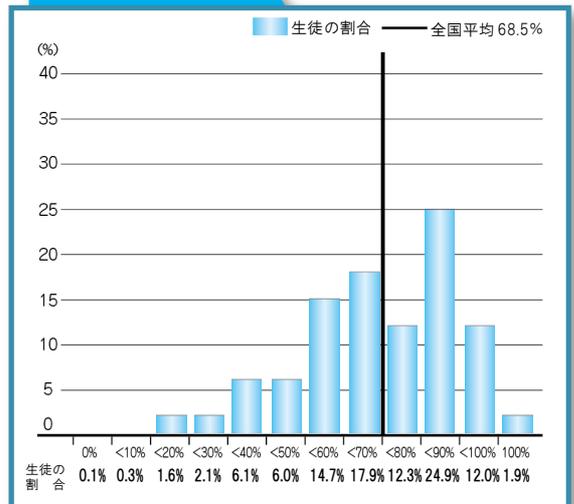
分析 コメント

- 中2国語は、教科全体の正答率が68.8%
- で、全国平均正答率を0.3ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、「思考・判断・表現」が66.6%で、全国平均正答率を1.4ポイント上回った。一方、「知識・技能」が72.5%で、全国平均正答率を1.8ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を書く

大問2(2)①

<ねらい> 小学校で学習した漢字を正しく書いている。

全国平均 74.4% 正答率 67.2% 差 ▲7.2 ポイント

指導のポイント 生活の中にある身近なものとして「砂糖」を出題したが、「糖」の字を書くことができない生徒が多かった。日頃から、身近な単語を漢字で適切に書けるかどうか確認する機会を、できるだけ設けることが必要である。漢字の知識を定着させるためには、意識して漢字を書く習慣を身に付けさせることが大切である。

話し合いの内容を聞き取る

大問1(3)

<ねらい> 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。

全国平均 43.9% 正答率 38.2% 差 ▲5.7 ポイント

指導のポイント 話し合いの参加者が押さえておかななくてはならないことは、話し合いの目的と、その到達点である。ここでは、ボランティア活動に参加する生徒を増やすための具体的な対策を決めることが到達点になる。話し合いでは、「活動の情報を、全校生徒にもっと知らせる」ことに全員が賛成しており、上野さんは、【話し合いの様子】の資料4を基に、「どのような方法で知らせるか」について述べようとしている。話し合いで説得力のある意見を述べるためには、話し合いの中で出された意見どうしを結び付けたり、関連する情報を根拠にしたりとよい。

中2 地歴

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

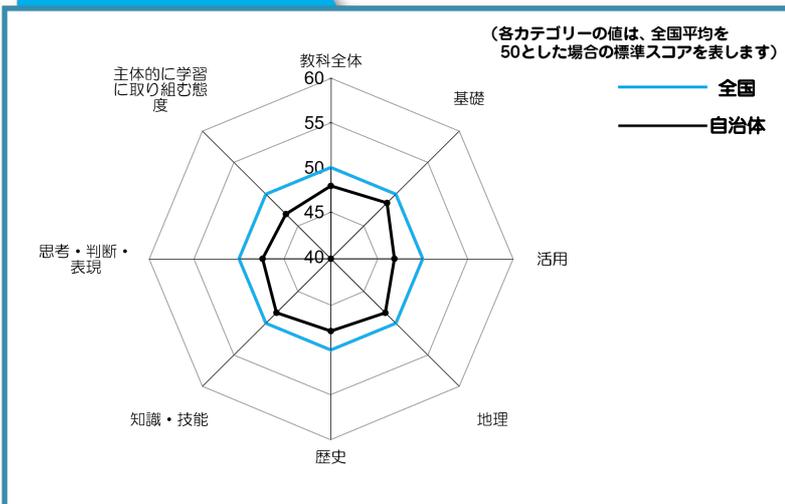
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		57.9	53.7	★
基礎		60.1	57.3	★
活用		52.2	44.6	★
領域別	地理	54.2	50.9	★
	歴史	61.6	56.5	★
観点別	知識・技能	58.4	55.0	★
	思考・判断・表現	56.2	49.9	★
	主体的に学習に取り組む態度	52.2	44.6	★

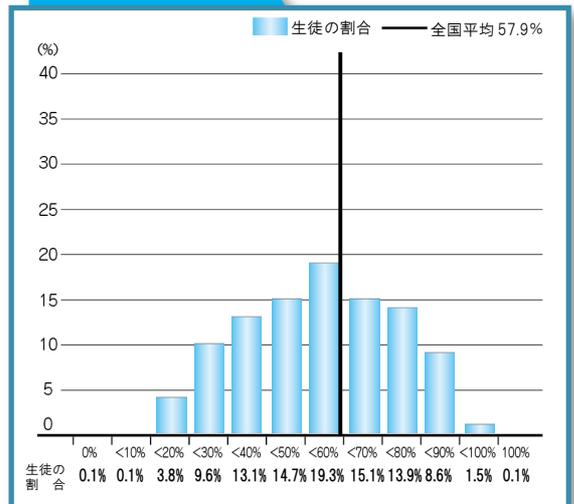
分析 コメント

- 中2地歴は、教科全体の正答率が53.7%
- で、全国平均正答率を4.2ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に届かなかった。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が44.6%
- で、全国平均正答率を7.6ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

世界各地の人々の生活と環境

大問3(3)

<ねらい> 世界各地の人々が住む家のつくりについて資料をもとに考察し、表現している。

全国平均 33.9% 正答率 16.3% 差 ▲17.6 ポイント

指導のポイント 世界の人々の生活を考えさせるには、衣類や住居、食事などを主な視点とし、地形や気候などと関連付けて考えるように指導することが大切である。住居の構造は、防寒や防熱への対応や、その地域で得られる材料が要因となって決定される。また、居住地区決定においては、水利が最優先であり、ほかには他民族等との交流や侵略防止、信仰などが要因となっている。写真資料などを活用し、世界のさまざまな家の起源を考えさせたい。

縄文時代～古墳時代

大問5(2)①

<ねらい> 大和政権の首長について理解している。

全国平均 69.3% 正答率 54.2% 差 ▲15.1 ポイント

指導のポイント 大和政権についての理解を深めさせるには、考古学の成果を活用した指導が有効である。「鉄剣の広がり」「古墳の広がり」など、生徒の興味・関心を引くようなポイントから学習を広げていくことで、大和政権と地方の関係に気付かせることが大切である。はじめは大和地方を中心とする豪族の連合であった大和政権の支配が、全国に及ぶようになり、国土が統一されたことを理解させたい。

「思考・判断・表現」が良好である

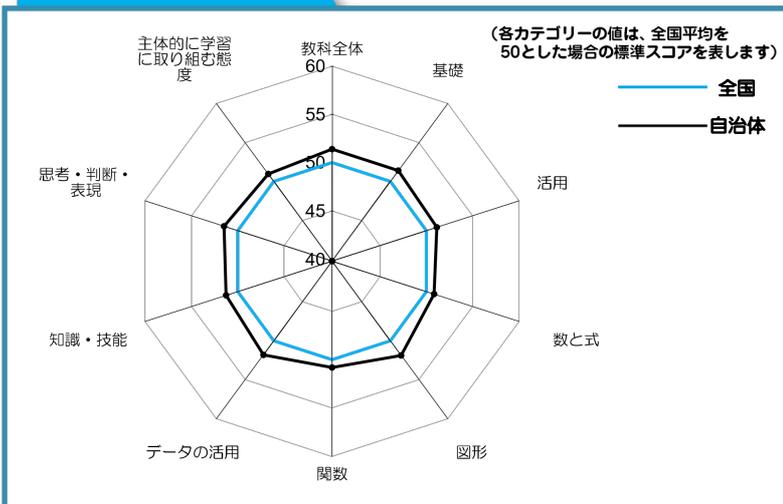
正答率一覧

		(単位%) ★=全国平均正答率	全国平均	自治体	(%)
教科全体		65.3	68.4		★
基礎		68.9	72.1		★
活用		51.7	54.8		★
領域別	数と式	69.0	71.2		★
	図形	66.3	70.9		★
	関数	64.5	66.8		★
	データの活用	55.8	60.4		★
観点別	知識・技能	67.3	70.2		★
	思考・判断・表現	60.4	64.1		★
	主体的に学習に取り組む態度	52.3	54.9		★

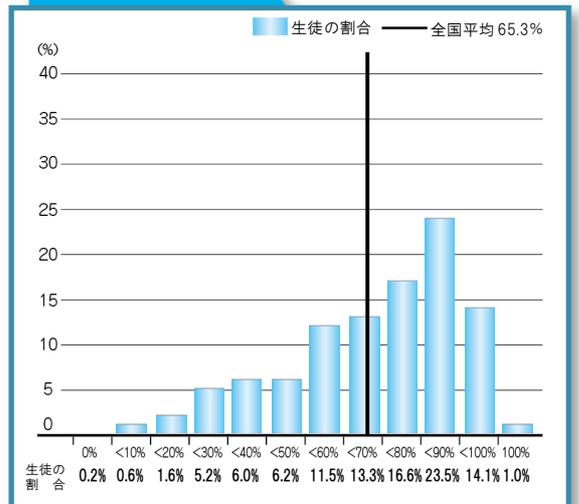
分析 コメント

- 中2数学は、教科全体の正答率が68.4%
- で、全国平均正答率を3.1ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「思考・判断・表現」が64.1%で、全国平均正答率を3.7ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

データの散らばりと代表値

大問23(2)

<ねらい> 問題文の表やヒストグラムを正しく読み取ることができる。

全国平均 36.2% 正答率 33.6% 差 ▲2.6 ポイント

指導のポイント これまで学習してきた、データをまとめる際に使う用語の意味をきちんと理解していないことが考えられる。指導としては、一連の統計的な問題解決の学習過程を経験させながら、用語の意味を理解させるとよい。具体的には、日常生活を題材とした問題などを取り上げて、それを解決するために計画を立て、必要なデータを収集し、コンピュータなどを利用してヒストグラムなどを作成したり相対度数などを求めたりしてデータの傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断する。その際、必要な用語などに注意しながら指導することが必要となる。

平面図形

大問13

<ねらい> 合同な2つの図形をみて、どのような移動をさせたのかを理解している。

全国平均 81.7% 正答率 79.8% 差 ▲1.9 ポイント

指導のポイント 中学校では、形や大きさを変えない移動として、平行移動、対称移動及び回転移動について指導する。図形の移動とは、きまりに従って図形を他の位置に移すものであることと、それぞれの移動のきまりを確実に理解させることが重要である。指導に当たっては、小学校で指導されている「ずらす」「まわす」「裏返す」などの操作を通して理解させていくことも必要となる場合がある。移動前と移動後の2つの図形の関係に着目できるようにすることで、図形の性質や関係を見だし、図形の移動について考察し表現する活動を大切にしていきたい。

中2理科

「知識・技能」の定着に課題が残る

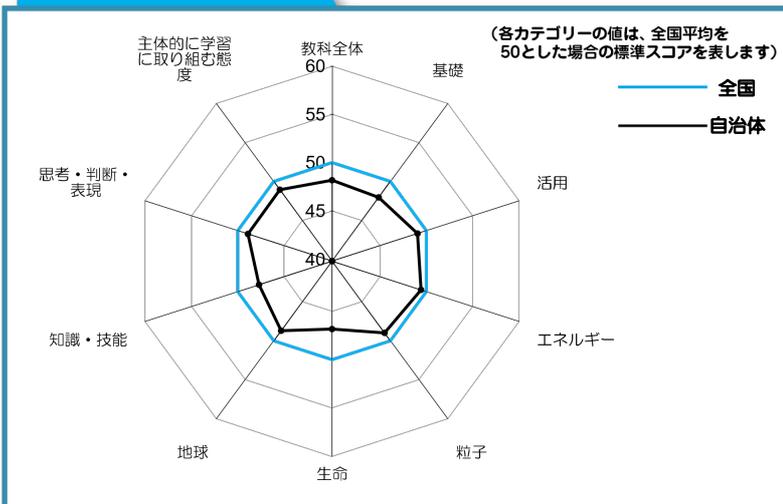
正答率一覧

		★全国平均正答率	全国平均	自治体	(%)
教科全体		64.1	60.5		★
基礎		66.9	62.9		★
活用		56.1	53.9		★
領域別	エネルギー	51.5	50.3		★
	粒子	62.4	60.0		★
	生命	71.9	64.0		★
	地球	71.0	67.8		★
観点別	知識・技能	69.8	64.9		★
	思考・判断・表現	58.4	56.1		★
	主体的に学習に取り組む態度	60.7	58.4		★

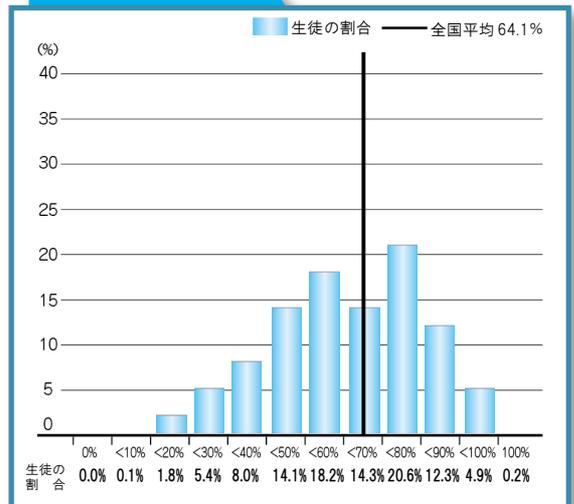
分析コメント

- 中2理科は、教科全体の正答率が60.5%
- で、全国平均正答率を3.6ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に届かなかった。中でも、「知識・技能」が64.9%で、全国平均正答率を4.9ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

植物の分類

大問2(3)

<ねらい> 単子葉類の根のつくりについて理解している。

全国平均 64.2% 正答率 47.7% 差 ▲16.5 ポイント

指導のポイント 植物の分類については、細かく分けて表を作成させるなど、植物がどのような特徴で分けられているかを理解させる必要がある。各分類に該当する身近な植物をいくつか調べさせ、実物を観察させたり、視聴覚資料を活用させたりすることが有効である。単子葉類と双子葉類については、子葉の数や葉脈の通り方、根の形、維管束の並び方に違いがあることに着目させる。本問のユリのような単子葉類の根は、たくさんの細い根（ひげ根）が広がっていることを確認させたい。

火山

大問10(1)

<ねらい> 火山岩のつくりを、「斑状組織」ということを理解している。

全国平均 50.0% 正答率 40.8% 差 ▲9.2 ポイント

指導のポイント 火成岩、火山岩、深成岩についての知識が不足していると考えられる。岩石の学習では、いろいろな岩石の名前や用語を覚える必要があるため、それらを整理した形で提示することが大切である。火成岩はできる過程の違いで火山岩と深成岩に分けられること、また、火山岩のつくりを「斑状組織」、深成岩のつくりを「等粒状組織」ということを確認させたい。

中2 英語A

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

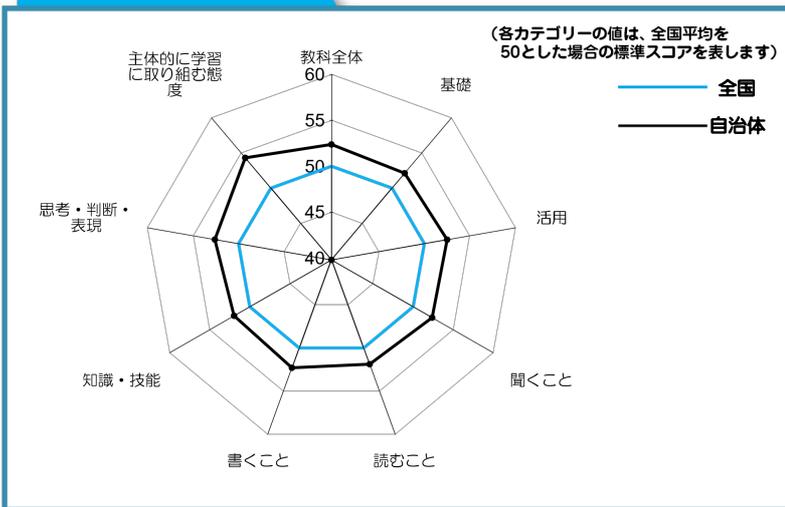
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		65.4	70.8	★
基礎		67.9	72.5	★
活用		60.0	67.0	★
領域別	聞くこと	72.1	77.6	★
	読むこと	62.4	66.8	★
	書くこと	63.5	70.1	★
観点別	知識・技能	71.4	75.4	★
	思考・判断・表現	54.0	61.9	★
	主体的に学習に取り組む態度	47.3	57.8	★

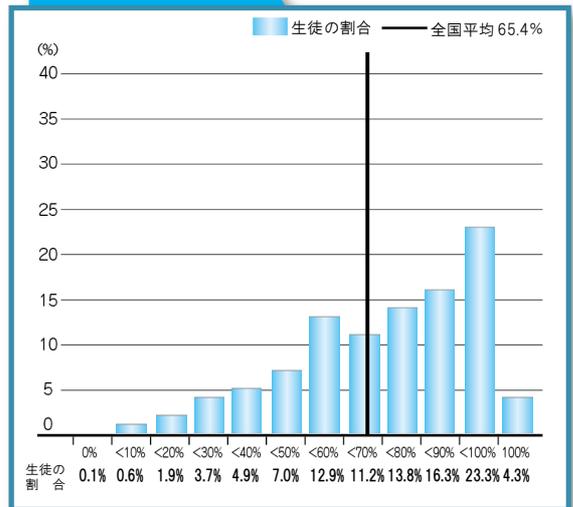
分析 コメント

- 中2英語Aは、教科全体の正答率が70.8%
- で、全国平均正答率を5.4ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「主体的に学習に取り組む態度」が57.8%
- で、全国平均正答率を10.5ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

リスニング(内容理解)

大問1(2)

<ねらい> 絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している。(曜日)

全国平均 86.7% 正答率 84.7% 差 ▲2.0 ポイント

指導のポイント 英文を聞き取り、音楽の授業がある曜日を正しく述べている文を選ぶ問題である。音楽の授業は1週間に2回あるので、その両方を的確に聞き取ることが求められる。日頃から、キーワードを押さえてメモを取る練習を積ませることが大切である。時間割を見ると、火曜日と金曜日の音楽の箇所に丸が付いていることから、あらかじめ聞くポイントを踏まえて聞き取らせることも必要である。

語形・語法の知識・理解

大問6(1)③

<ねらい> 対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。(一般動詞過去の疑問文)

全国平均 42.3% 正答率 41.2% 差 ▲1.1 ポイント

指導のポイント 本問のような語形・語法の問題において正答が得られないのは、日頃からの練習の不足を意味している。文法導入が終わった後は、練習(パターンプラクティス)が不可欠である。一般動詞の過去形の肯定文を疑問文にするパターンを何回も口頭練習させることによって、一般動詞を原形に直すことを習慣化させたい。口頭練習の後には、ドリル問題を使用し、書くことによって、その表現が定着しているかを確認することが大切である。

「思考・判断・表現」が良好である

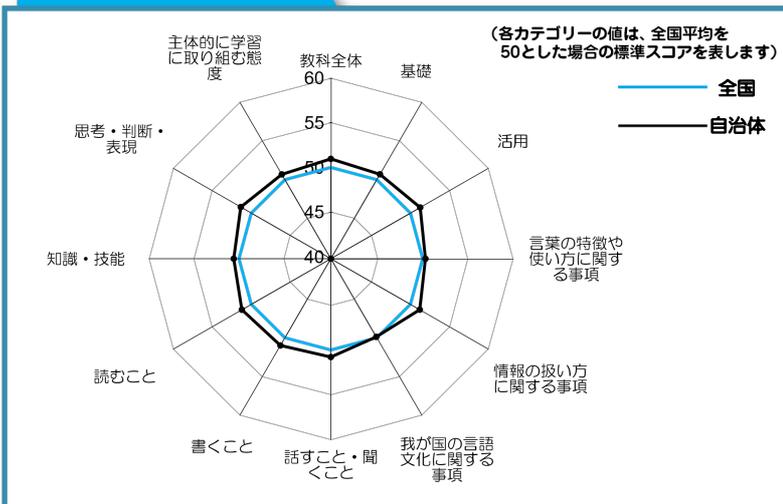
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		66.5	68.4	★
基礎		67.9	69.3	★
活用		63.7	66.6	★
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	65.8	66.5	★
	情報の扱い方に関する事項	58.2	61.4	★
	我が国の言語文化に関する事項	74.9	74.5	★
	話すこと・聞くこと	71.7	73.8	★
	書くこと	67.0	70.7	★
観点別	読むこと	63.4	66.2	★
	知識・技能	65.0	66.2	★
	思考・判断・表現	65.8	68.7	★
	主体的に学習に取り組む態度	56.0	58.1	★

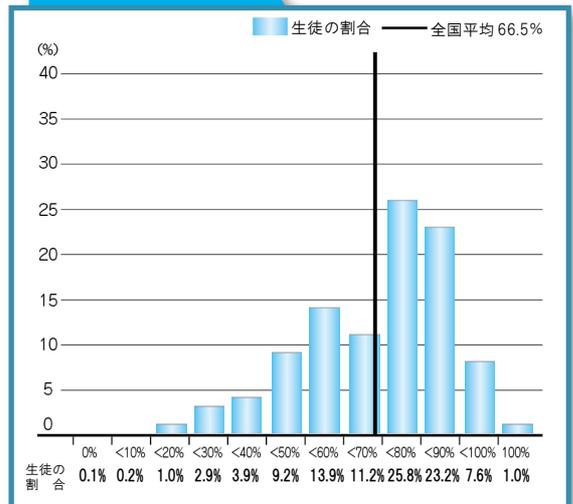
分析 コメント

- 中3国語は、教科全体の正答率が68.4%
- で、全国平均正答率を1.9ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に達している。中でも、「思考・判断・表現」が68.7%で、全国平均正答率を2.9ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を読む

大問2(1)②

<ねらい> 第2学年までに学習した漢字を正しく読んでいる。

全国平均 30.4% 正答率 23.7% 差 ▲6.7 ポイント

指導のポイント 第3学年では、第2学年までに学習した常用漢字に加え、更に残りの常用漢字の大体を読めるようにすることが必要である。今後社会生活を送る上では、さまざまな言葉の知識が求められる。辞書の恒常的な活用、新出漢字や熟語を用いた短文作り、漢字クイズの取り入れなど、学習活動を工夫して基礎知識の定着を図りたい。

制服を洗う方法について調べる

大問6(1)②

<ねらい> 情報と情報との関係について理解し、文章を読んで理解したことを知識や経験と結び付け、自分の考えを深めている。

全国平均 29.1% 正答率 26.0% 差 ▲3.1 ポイント

指導のポイント 大問6(1)①を考える過程で、「ドライクリーニング」と「家で水洗いする方法」の違いについて明らかにしている。泥はねの汚れにはどちらの方法がよいかはすぐに分かるだろう。理由については、泥はねの汚れの性質と関係付けて、両者の大きな違いをキーワードにして書く。このような複数の資料を組み合わせた問題により、情報を読み取り分析するために必要な言葉の力が身に付いているかを判断できる。第3学年では、文章を比較して読む学習を行うが、第1学年から意識して、複数の教材を比較して読む学習を積み上げていくことが必要である。

「知識・技能」の定着に課題が残る

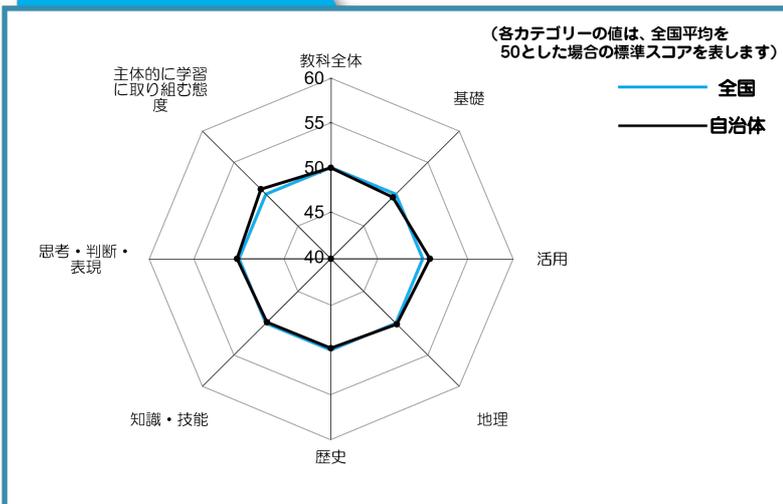
正答率一覧

		全国平均	自治体	(%)
教科全体		64.8	64.7	★
基礎		69.2	68.2	★
活用		55.0	57.0	★
領域別	地理	67.4	67.8	★
	歴史	62.3	61.9	★
観点別	知識・技能	69.2	68.9	★
	思考・判断・表現	54.9	55.5	★
	主体的に学習に取り組む態度	55.0	57.0	★

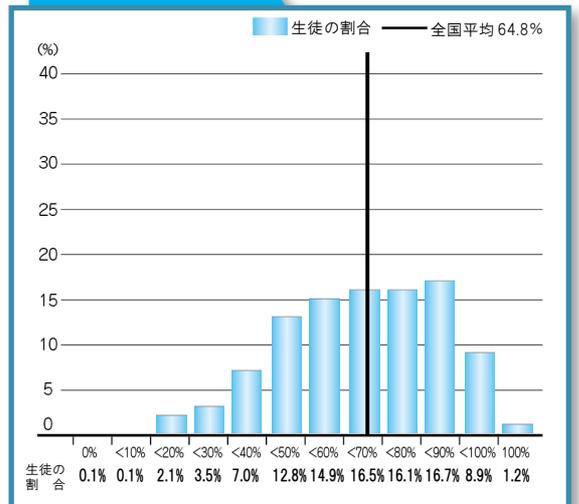
分析 コメント

- 中3地歴は、教科全体の正答率が64.7%
- で、全国平均正答率を0.1ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「主体的に学習に取り組む態度」が57.0%で、全国平均正答率を2.0ポイント上回った。一方、「知識・技能」が68.9%で、全国平均正答率を0.3ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

明治時代

大問6(3)

<ねらい> 大日本帝国憲法について理解している。

全国平均 52.2% 正答率 42.1% 差 ▲10.1 ポイント

指導のポイント 「大日本帝国憲法」という用語を記述させる問題である。大日本帝国憲法は、1889年に公布された東アジア初の成文憲法であり、歴史的な意義は大きい。同憲法が、君主の権限が強いという点で日本の政治体制に近いと考えられた、ドイツ（プロイセン）の憲法を手本に作成されたことを理解させたい。授業においては、憲法の主要な条文を紹介し、天皇主権が謳われていることなど、現在の日本国憲法との違いを確認させる必要がある。

日本の諸地域

大問2(2)

<ねらい> 阪神工業地帯を理解している。

全国平均 56.6% 正答率 48.3% 差 ▲8.3 ポイント

指導のポイント 阪神工業地帯は、姫路から堺、和歌山にかけて位置する、日本有数の工業地帯であることを確認させる必要がある。淀川などの豊富な水を工業用水として利用することで、戦前から繊維工業を中心に発展してきたこと、現在は機械工業が盛んであり、生産額のおよそ4割を機械工業が占めることを押さえさせたい。近年では、大阪湾岸の製鉄所跡地などに、太陽電池を生産する新しい工場やテーマパークなどが建設されてきたことについても触れておくとよい。

中3 数学

「知識・技能」が良好である

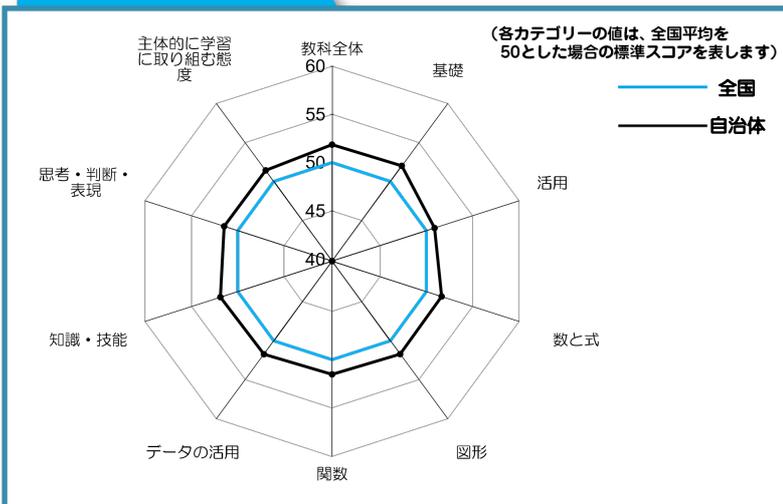
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		63.0	67.4	★
基礎		66.1	70.8	★
活用		47.0	49.7	★
領域別	数と式	68.1	72.3	★
	図形	64.8	69.2	★
	関数	54.2	58.4	★
	データの活用	66.2	71.1	★
観点別	知識・技能	66.0	70.4	★
	思考・判断・表現	50.3	54.4	★
	主体的に学習に取り組む態度	52.4	56.2	★

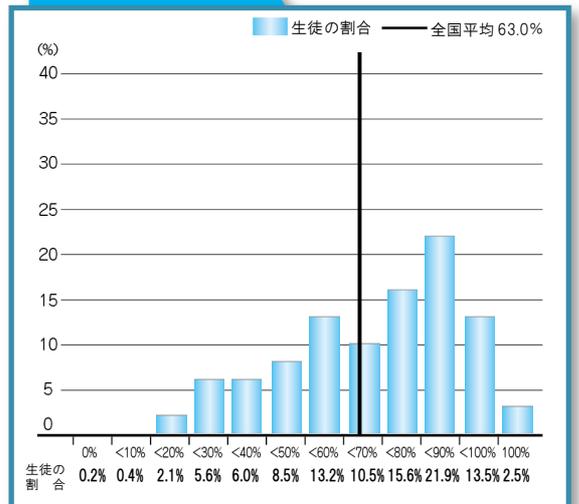
分析 コメント

- 中3数学は、教科全体の正答率が67.4%
- で、全国平均正答率を4.4ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に達している。中でも、「知識・技能」が70.4%で、全国平均正答率を4.4ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

1次関数

大問20(1)

<ねらい> 1次関数のグラフから、ばねのびた長さを読み取ることができる。

全国平均 51.6% 正答率 49.9% 差 ▲1.7 ポイント

指導のポイント 本問は、ばねにおもりをつるしたときの、ばねが伸びる長さを求める問題であるが、ばね全体の長さを求めてしまう誤答が見られた。これは、グラフの傾き（変化の割合）と増加量についての理解が十分でないためであると考えられる。ばねが伸びた長さ（yの増加量）を求めるだけでなく、xの値がaのときのyの値を求める問題との違いについても確認させる必要がある。

確率

大問18

<ねらい> 確率の意味を正しく理解している。

全国平均 68.6% 正答率 68.2% 差 ▲0.4 ポイント

指導のポイント 確率を求める際には、実際に多数回の試行を行うよりも、場合の数に基づいて考えた方が効率的である。しかし、その際、本問における誤答のように、確率本来の意味が見失われる場合がある。そこで、実際の多数回の試行によって得られた確率と、場合の数を基にして得られた確率とを関連付けて指導を行うことが求められる。さいころの目の出方は6通りあるので、多数回さいころを投げると、どの目についても、出る回数割合は1/6に近づき安定することを経験させて、実感をもって理解させることが必要となる。

中3理科

「知識・技能」の定着に課題が残る

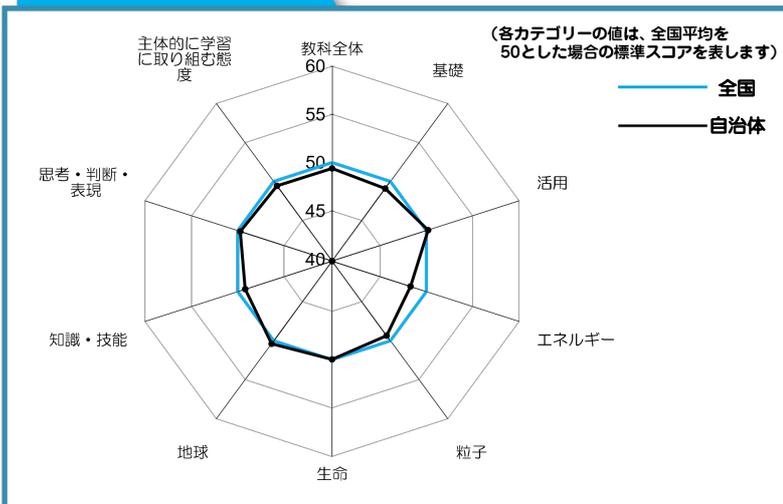
正答率一覧

		(単位%) ★=全国平均正答率	全国平均	自治体	(%)
教科全体		59.8	58.5		★
基礎		62.6	60.6		★
活用		53.2	53.7		★
領域別	エネルギー	67.1	62.9		★
	粒子	53.3	51.7		★
	生命	67.9	67.8		★
	地球	51.0	52.0		★
観点別	知識・技能	61.7	59.9		★
	思考・判断・表現	57.4	56.8		★
	主体的に学習に取り組む態度	56.6	55.3		★

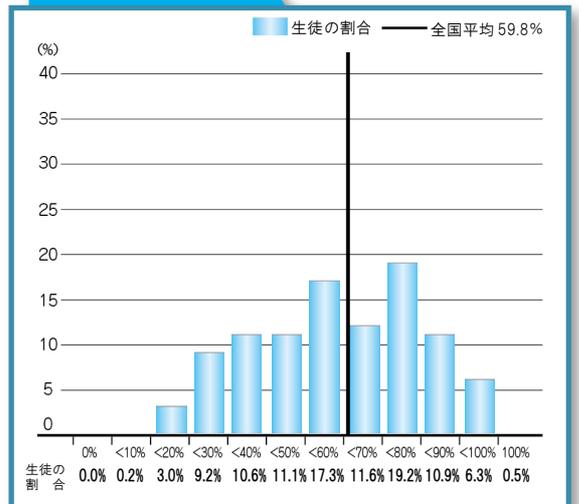
分析コメント

- 中3理科は、教科全体の正答率が58.5%
- で、全国平均正答率を1.3ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に届かなかった。中でも、「知識・技能」が59.9%で、全国平均正答率を1.8ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

電流と磁界

大問11(2)

<ねらい> 誘導電流の向きと大きさを変えることができる。

全国平均 61.1% 正答率 53.6% 差 ▲7.5 ポイント

指導のポイント 誘導電流の向きや大きさに影響を与える条件としては、コイルの巻かれている方向と棒磁石の磁極との関係、棒磁石の磁力が強い場合と弱い場合、棒磁石の出し入れの速さが早い場合と遅い場合、コイルの巻数が多い場合と少ない場合などが挙げられる。これらについて、きちんと整理しておくことが大切である。

動物のからだのつくりとはたらき

大問5(1)

<ねらい> デンプンを消化する器官を理解している。

全国平均 68.9% 正答率 62.6% 差 ▲6.3 ポイント

指導のポイント 唾液を使った消化実験は、授業でも簡単に取り入れることができる上、これによれば、生徒一人一人が消化という働きについて実感することができる。唾液腺、食道、胃、小腸、大腸など、消化に関係する諸器官の働きについては、一覧にしてまとめさせておくことが必要である。

中3 英語A

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

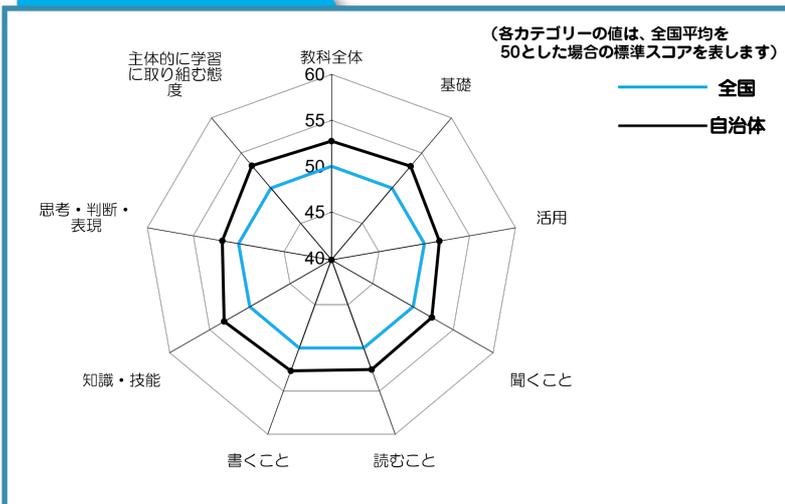
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		64.8	71.6	★
基礎		63.9	71.7	★
活用		66.8	71.3	★
領域別	聞くこと	68.6	74.1	★
	読むこと	66.3	72.6	★
	書くこと	58.7	67.4	★
観点別	知識・技能	67.3	74.8	★
	思考・判断・表現	60.0	65.4	★
	主体的に学習に取り組む態度	53.6	61.9	★

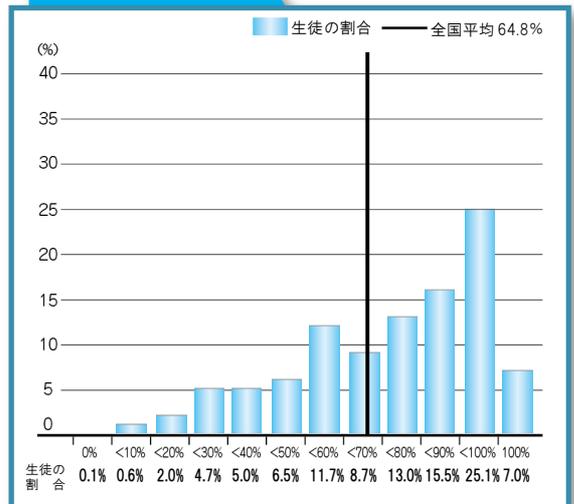
分析 コメント

- 中3英語Aは、教科全体の正答率が71.6%
- で、全国平均正答率を6.8ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に達している。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が61.9%
- で、全国平均正答率を8.3ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

リスニング(さまざまな英文の聞き取り)

大問3

長文の読み取り

大問8(3)

<ねらい> 社会的な話題についての英文を聞き、概要を捉えている。

<ねらい> 長文を読み、その要点を捉えている。

全国平均 92.0% 正答率 86.3% 差 ▲5.7 ポイント

全国平均 77.8% 正答率 79.8% 差 2.0 ポイント

指導のポイント 授業においては、教師がオーラルイントロダクションでピクチャーカードを使いながら、本文内容を簡単な英語で紹介する活動を、各単元ごとに行うことが基本である。また、生徒が行う活動としては、クラス内で聞きたい内容(例えば、朝食はパン派か、ご飯派か、シリアル派かなど)を質問し、その結果をグラフにしてスピーチするようなsurvey and reportの活動を行うとよい。その際には、グラフを示しながら説明する活動になるので、本問のような問題を解く際の考え方に近い思考を身に付けることができる。

指導のポイント ホームルームで、ブラウン先生が呼びかけている内容を把握する問題であり、先生の話の一部ではなく、全体を通して考える必要がある。ブラウン先生が呼びかけている内容の主要な部分は、最後のパラグラフに書かれていることから、最後までしっかりと読むことが要求される。授業においては、長文を読んだ際にサマリーを書かせるなど、要旨をつかむ訓練をさせるとよい。パラグラフごとに、その中心となる話題は何かを日本語で書かせたり、英文の中からトピックセンテンスを選ぶような練習をさせたりすることも有効である。